

レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成30年5月14日	使用開始日	
登録診療科	血液内科	申請医師	上田 周二
レジメン名	R-CODOX-M	化学療法委員会承認年月	平成 30年 6月
疾患名	非ホジキンリンパ腫	適応の備考	リツキシマブは、CD20陽性の場合に使用する
適応分類			R-CODOX-MとR-IVACを交互に2コースずつ行う
1コース日数	21 日間	総コース数	2 コース
			催吐性リスク   day1-5.10.15.17: 中等度、day6.8.21: 最小度
抗がん剤投与量・投与日	エンドキサン800mg/m <sup>2</sup> day1、ドキシソルピシン40mg/m <sup>2</sup> day1、オンコピン1.5mg/m <sup>2</sup> day1.8.(15)、エンドキサン200mg/m <sup>2</sup> day2-5、メソトレキセート550mg/m <sup>2</sup> day10、メソトレキセート2450mg/m <sup>2</sup> day10、リツキシマブ375mg/m <sup>2</sup> day6.21、 【随注】キロサイド40mg/body・プレドニン20mg/body day1.3.(5)、メソトレキセート15mg/body・プレドニン20mg/body day(15).(17)		

治療スケジュール・投与日程(投与日は●)

投与順	ルート/方法	薬剤名	投与量	投与時間	(day)																				
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●																				
	点滴静注	プロイメド注150mg	1 本 / body	30分	●																				
2	主ルート	グラニセトロン注ハッグ1mg/50mL	1 本 / body	30分	●	●	●	●																	
	点滴静注																								
3	主ルート	生食500mL	1 本 / body		●																				
	点滴静注	エンドキサン注 閉鎖式システム使用	800 mg / m <sup>2</sup>	2時間	●																				
4	主ルート	生食500mL	1 本 / body			●	●	●																	
	点滴静注	エンドキサン注 閉鎖式システム使用	200 mg / m <sup>2</sup>	2時間		●	●	●																	
5	主ルート	生食100mL	1 本 / body		●																				
	点滴静注	ドキシソルピシン注	40 mg / m <sup>2</sup>	30分	●																				
6	主ルート	生食100mL	1 本 / body		●																				
	点滴静注	オンコピン注	1.5 mg / m <sup>2</sup>	30分	●																				
総投与量は500mg/m <sup>2</sup> まで。 最大投与量は2mg/body/回を超えないこととする。 初回治療時はday15の投与はしない。2コース目以降で神経障害のない場合のみ投与する																									
7	主ルート	生食500mL	0.675 本 / m <sup>2</sup>																						
	点滴静注	リツキシマブ注	375 mg / m <sup>2</sup>	下記																					
10倍に希釈する。day21の投与は「次回治療の前」投与分																									
8	主ルート	生食500mL	1 本 / body																						
	点滴静注	メソトレキセート注	550 mg / m <sup>2</sup>	60分																					
9	主ルート	生食500mL	1 本 / body																						
	点滴静注	メソトレキセート注	2450 mg / m <sup>2</sup>	23時間																					
10	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5分	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	静脈注射																								
11	主ルート	生食50mL	1 本 / body																						
	静脈注射	ロイコボリン注	85.7 mg / m <sup>2</sup>	15分																					
メソトレキセート投与開始後36時間後に投与する。																									
12	主ルート	生食50mL	1 本 / body	15分																					
	静脈注射	ロイコボリン注	12 mg / m <sup>2</sup>	15分																					
Rp11の投与後、6時間毎にMTX血中濃度が0.05 μM未満となるまで継続する。																									
13	なし	キロサイド注	40 mg / body		●	●	●	●																	
		プレドニン注	20 mg / body		●	●	●	●																	
	随注	生食20mL	1 本 / body		●	●	●	●																	
14	なし	メソトレキセート注	15 mg / body																						
		プレドニン注	20 mg / body																						
	随注	生食20mL	1 本 / body																						
15	経口投与	ボラミン錠2mg	1-3錠 / body																						
		ジクロフェナクNa錠25mg	1錠 / body																						
リツキシマブ投与の30分前																									

【投与上の注意】

- 1コース日数は21日間以上空ける(造血回復後に次のコースを開始する)。
- day5のキロサイド・プレドニン随注およびday17のメソトレキセート・プレドニン随注は、初発時に中枢神経浸潤のある症例のみ投与する。
- day15、17のメソトレキセート・プレドニン随注は、grade2以上の非血液毒性があったり、MTX血中濃度が0.05 μM以上ある場合は、投与しない。
- 60歳以上は減量する。
- ・プロイメドは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。
- ・プロイメドは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。
- ・プロイメドの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサメタゾン注を投与して、その次に抗がん剤を投与することとなっているが、このレジメンはデキサメタゾンの投与は不要。
- リツキシマブ: 前投薬としてボラミン(2)1~3錠、ジクロフェナクNa(25)1錠を内服する。
- リツキシマブ: 初回はECGモニターをつける。
- リツキシマブ: 投与速度は初回は25mL/h×1h、100mL/h×1h、残りは200mL/hとする。
- リツキシマブ: 2回目以降はinfusion reaction が初回にしなければ100mL/h×1h、残りは200mL/hとする。
- ロイコボリンレスキュー: メソトレキセート投与開始36時間後に、85.7mg/m<sup>2</sup>を点滴静注し、以後6時間毎に12mg/m<sup>2</sup>をMTX血中濃度が、0.05 μM未満となるまで継続投与する。